

北海道斜里町におけるウズラ *Coturnix japonica* の観察記録と 繁殖可能性について

下村 礼介^{1*}・羽田野 一輝²

1 株式会社ビックオ, 099-4355 北海道斜里郡斜里町ウトロ東284

2 羽田野農産, 099-4145 北海道斜里郡斜里町美咲20

SHIMOMURA Reisuke^{1*} & HATANO Kazuki²: A sighting record of the Japanese quail
Coturnix japonica and its breeding possibility in Shari town, Hokkaido

*✉ rayshimomura@gmail.com

The Japanese quail *Coturnix japonica* is a small ground-dwelling bird, which belongs to the family Phasianidae. The bird is currently classified as Vulnerable in Japan. However, there is a limited amount of literature on the distribution, abundance, and ecology of the quail. On 19 October 2021, one of the authors photographed a juvenile quail in a flock of five in Shari town, Hokkaido, where there were only a few records of the bird in the past. This report adds the rare sighting record of the Japanese quail and discusses its breeding possibility.

Keywords Japanese quail, breeding, cropland, distribution, Hokkaido

はじめに

ウズラ *Coturnix japonica* はキジ目キジ科ウズラ属に分類される、小型（全長約20 cm）の鳥類である（真木ら 2014）。生息環境としては河川敷の草原や、麦畑や牧草地などの農耕地を好むとされている（環境省自然環境局生物多様性センター 2004b; 奥山 2009; 真木ら 2014）。季節性の渡り鳥で、日本の中部以北のほか、シベリア南部やサハリン、中国北東部、モンゴル東部、朝鮮半島などで繁殖し、越冬は日本中部以南の雪の少ない地域や、南中国、インドシナ半島で行う（奥山 2009）。夏鳥として飛来し、北海道で繁殖するウズラは、関東や東海、紀伊、四国で越冬するものが多い（奥山 2009）。

1930年代後半に狩猟捕獲数は激減し、その後1980年代にさらに数を大幅に減らしたが（木村 1991）、2007年まで狩猟禁止措置が取られることはなかった（奥山 2009）。2012年に絶滅危惧II類とされ（環境省自然環境局野生生物課 2012）、2013年に狩猟鳥から除外された（環境省自然環境局 2016）。北海道を含め、全国的なウズラの分布や生息数についてはデータが不足しており、現在の実態は不明確

な部分が多いが、ごく近年に限れば観察例はやや増加している（植田・植村 2021）。

今回、2021年10月19日、斜里町において幼鳥を含むウズラの群れが確認され、記録の少ない同町およびオホーツク管内における、より高い繁殖の可能性を示す貴重な記録であるため、ここに報告する。

今回の記録

1. 観察日時・場所・環境

2021年10月19日午後12時30分頃、筆者のうち羽田野は、北海道斜里郡斜里町美咲に位置する自身のエン麦畑内（43°54'9.79"N, 144°36'15.44"E; 図1）でトラクターでの鍬込み作業中に、畑に隣接する道路脇の草地から5羽ほどの鳥の小群が現れたのを発見した。トラクターが近づくと群れは逃げるように走り、さらに近距離に接近すると低く地面と平行するように短く飛翔し、地面に降り立つという行動を何度か繰り返していた。羽田野はそのうちの1羽を写真に捉えた（図2）。周囲は農耕地帯であり、観察地の十数メートル北にはカラマツなどからなる防風林が存在するが、それ以外は小麦畑やじゃがいも畑が広がって

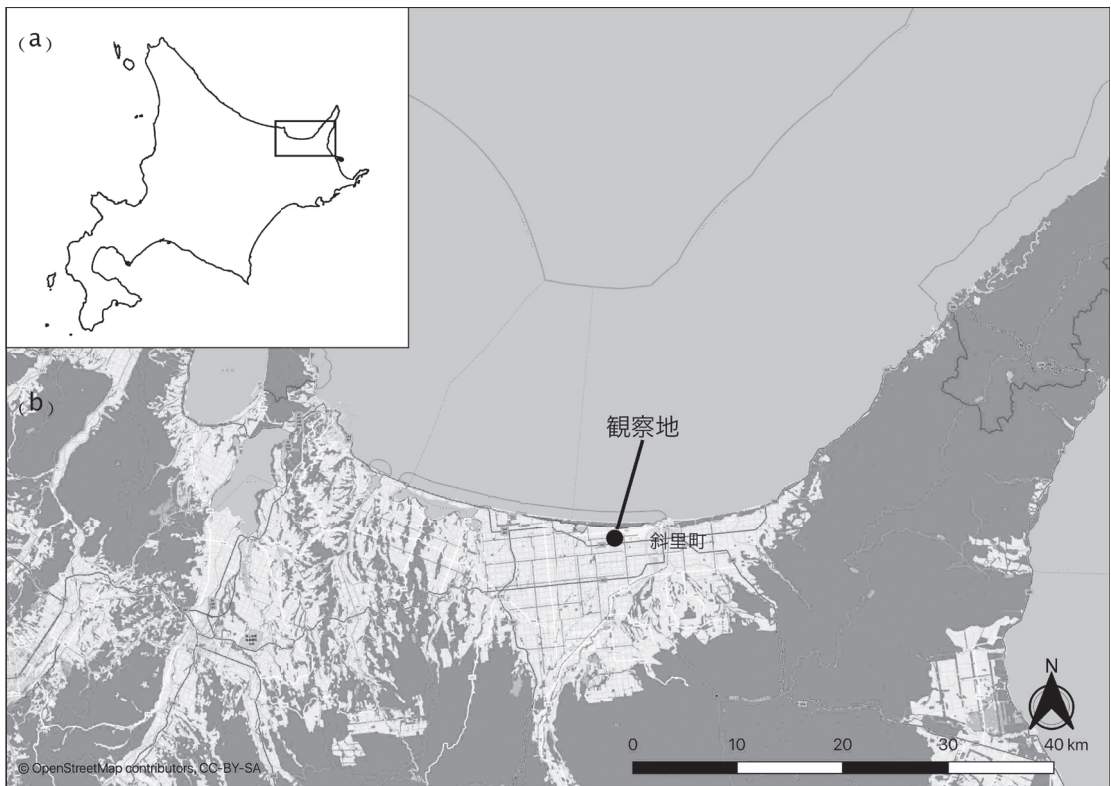


図1. 北海道(a)と今回のウズラ観察地の地図(b).

いる。なお、観察地の畑では、エン麦が緑肥として収穫後の小麦畑に植えられていた。

同年10月25日午後1時30分から午後4時頃まで、下村は発見のあった畑及び付近の農耕地を車両で走行しながら搜索したが、同様の鳥を再発見することはできなかった。

2. 形態的特徴と種の同定

大きさはヒバリよりもやや大きく、ずんぐりした体型である。図2の個体は、全体的に淡褐色で、首から背中、雨覆には、特徴的な淡黄色の軸斑が見られる。また、羽根には黒褐色と淡褐色の横斑がある。これらの特徴からウズラ *Coturnix japonica* と同定した。ただし、ウズラの成鳥に特徴的な白色の眉斑は見られず、代わりに頭部の特に額と目の周りは淡橙色の、腮(さい)から喉にかけては淡黄色の幼綿羽でそれぞれ覆われているほか、後頭部にも幼綿羽が混ざっている。また、初列および次列風切の一部に横斑のない青灰色の羽根が見られるが、その他は換羽を終了

している。家禽ウズラでは、この状態になるのがおよそ20日齢頃である(河合農場・タイデスうずらの成長記録。うずらのタイデス, <https://www.tydess.jp/>, 2021年11月15日閲覧)。このことから、今回発見された個体は約20日齢であると判断した。また、家禽ウズラにおいては約30日齢から性別の判別が可能であるが(坂井 2000)、図1の個体については雌雄の差が顕著に発現する頭部の換羽が終了していないため性別不明である。なお、群れのその他の個体については写真に収めることができず、詳細は不明である。類似種であるミフウズラはひと回り小さく、日本では南西諸島にしか生息しない。コジュケイはウズラより一回り大きく尾が長いほか、観察地周辺地域では確認されていない。近縁種のヨーロッパウズラは外見が酷似しているが、日本には生息しない。また、近隣にウズラ農家はないため、籠脱けである可能性も低い。

斜里町での繁殖可能性について

今回撮影された個体は、上記の通り、孵化後約

20日齢の幼鳥と思われる。孵化日数は16～21日かかるため（奥山 2009; 環境省自然環境局 2016）、産卵時期は9月中旬であったと考えられる。発見時にはすでに飛翔能力を獲得していることから、今回の観察地以外の地域で繁殖を行い、移動してきた可能性は否めない。ウズラの飛翔開始日齢については確かな文献が無いが、近縁種のヨーロッパウズラでは19日齢頃から飛翔を始めるとされており（Cramp & Simmons 1980）、これを当てはめると、今回のウズラも発見時には飛翔能力を獲得した直後で、長距離を飛行する体力を持つに至っていないと思われるため、観察地、または、ごく近距離の場所で繁殖を行っていた可能性が高い。

ウズラの繁殖期は長く、5月から10月にかけて繁殖する（環境省生物多様性センター 2004a; 奥山 2009; 環境省自然環境局 2016）。今回発見のあった斜里町でも5月から8月頃まで、小麦畑などの農耕地でさえずりが聞かれていることから（日本野鳥の会オホーツク支部。【野鳥情報】190629-0818/斜里町/ウズラ。日本野鳥の会オホーツク支部, <http://wbsj-okhotsk.org/blog/?p=14144>, 2021年7月16日閲覧; 川崎康弘 私信), この時期にも繁殖が行われている可能性がある。

道東における過去の記録

第6回自然環境保全基礎調査（環境省自然環境局生物多様性センター 2004a）では、1997年から2002年までの間、道東でのウズラの生息は確認されなかった。藤巻（2010）は1976から2009年までの北海道中部・南東部を中心としたウズラの分布調査の結果を報告しており、十勝管内や釧路管内北部では記録があるものの、オホーツク管内の大部分にかけては未調査であった。また、この調査において繁殖の有無は不明であった。十勝管内においては、2012年6月に豊頃町で、2013年6月に音更町で生息が確認されているほか（環境省自然環境局 2016）、持田・百瀬（2020）が2019年8月に浦幌町で生息を確認しているが、確実な繁殖は確認できていない。オホーツク管内では近年の確実な生息報告を行った文献は少なく、2000年以前のものが多い; 1973年4月の斜里町本町での採集記録（知床博物館収蔵資料分類台帳（動物））、1981年知床岬での記録（中川 1982）、1983年12月のコムケ湖での記録（大館ら 1986）、1995年9月濤沸湖での記録（川崎 1997）など。しかし、2014年5月に濤沸湖でさえずりの確認（渡辺義明 私信）や2019年6月から8月にかけて斜里町以久科南で複数羽のさえずりの確認（日本野鳥の会オホーツク支部。【野鳥情報】190629-0818/斜里町/ウズラ。日本野鳥の会オホーツク支部, [図2. 今回発見されたウズラの幼鳥。](http://wbsj-</p>
</div>
<div data-bbox=)



okhotsk.org/blog/?p=14144, 2021年7月16日閲覧), 2021年にかけても斜里町南部の豊倉や中斜里の小麦畑やじゃがいも畑などでさえずりの情報(川崎康弘 私信)があるほか, 2016から2021年にかけて行われた全国鳥類繁殖分布調査(植田・植村 2021; 土屋尚 私信)では, 2020年6月14日にオホーツク管内の藻琴湖周辺でもさえずりの確認があり, これらの地域での繁殖を示唆している。記録のない1996から2013年と比べると, 今回の発見と合わせ, 2014年以降のオホーツク管内では観察例は増加傾向にあるものの, 実際の個体数動向や繁殖状況は不明確な点が多い。保全のためには今後もモニタリングを継続するとともに, 人による土地利用や植生の変化, 禁猟の影響などを合わせて調査していく必要がある。

謝辞

今回, 本稿をまとめるにあたり以下の方々にご協力頂いた。ウズラの生息情報に関して貴重な情報を提供して下さった北海道カワウ研究会・渡辺義明氏, Eureka!・土屋尚氏および日本野鳥の会オホーツク支部・川崎康弘氏, 家禽ウズラの情報をご紹介頂いた京都市動物園・岡橋要氏, ウズラの飛翔能力獲得に関して助言を頂いた須坂市動物園・山口友里氏ならびに, 文献等をご紹介頂いた山階鳥類研究所・平岡考氏に, この場を借りて厚く感謝申し上げます。

引用文献

- Cramp S & Simmons K (eds). 1980. Handbook of the Birds of Europe, the Middle East and North Africa: The Birds of the Western Palearctic, Vol. II: Hawks to Bustards. Oxford University Press, Oxford.
- 藤巻裕蔵. 2010. 北海道中部・南東部におけるウズラの繁殖期の生息状況. 日本鳥学会誌 59: 55-60.
- 環境省自然環境局. 2016. ウズラ調査マニュアル. 環境省, 東京.
- 環境省自然環境局生物多様性センター. 2004a. 第6回自然環境保全基礎調査 種の多様性調査 鳥類繁殖分布調査報告書. 環境省, 東京.
- 環境省自然環境局生物多様性センター. 2004b. 第6回自然環境保全基礎調査 生物多様性調査 生態系多様性地域調査(湿原生態系調査) 報告書—

- 北海道夏鳥調査—環境省, 東京.
- 環境省自然環境局野生生物課. 2012. 環境省第4次レッドリスト. 環境省, 東京.
- 川崎康弘. 1997. 網走市・小清水町・斜里町におけるオホーツク海沿岸部周辺の鳥類. 知床博物館研究報告 18: 19-34.
- 木村正雄. 1991. 野生ウズラのツキ網猟および日本における野生ウズラの捕獲羽数の推移に関する考察. 家禽誌 28: 166-169.
- 真木広造・大西敏一・五百澤日丸. 2014. ウズラ. 決定版日本の野鳥 650. p 24. 平凡社, 東京.
- 持田誠・百瀬邦和. 2020. 北海道十勝地方浦幌町でのウズラの確認記録. 浦幌町立博物館紀要 20: 35-37.
- 中川元. 1982. 知床半島先端部の鳥類. 知床博物館研究報告 4: 49-54.
- 大館和広・大塚恭司・藤田司. 1986. コムケ湖の野鳥. ワイルドライフ・レポート 4: 57-68.
- 奥山正樹. 2009. ウズラ. バードリサーチニュース 6: 4-5.
- 坂井利夫. 2000. ウズラ. 学校飼育動物の診療ハンドブック. p 83. 社団法人日本獣医師会, 東京.
- 植田睦之・植村慎吾. 2021. 全国鳥類繁殖分布調査報告 日本の鳥の今を描こう 2016-2021年. 鳥類繁殖分布調査会, 東京.